

2019 ぎふ平和のつどい

ニュース 第1号 2019年5月発行

「2019 ぎふ平和のつどい」

実行委員会 編集

(委員長:平井花画)

事務局:「岐阜・九条の会」

(岐阜県教育会館3F 304号)

今年は11月3日(祝)、講演は児童文学作家の那須正幹さんです!

今年は、憲法9条を守れるか、それとも壊されて再び戦争への道を歩むのか、重大な岐路を迎えています。その焦点は、安倍首相が「憲法に自衛隊を明記する」という改憲案を容認するのか、それとも拒否するのかです。これに反対する「安倍9条改憲NO! 3000万人署名」が繰り広げられています。

この山場になる今秋、憲法公布73周年の11月3日に、「2019 ぎふ平和のつどい」を岐阜市民会館で開催します。

今年の記念講演は、総発行部数2300万部の大ヒット児童

文学「ズッコケ三人組」シリーズの作者である那須正幹(なすまさもと)さんです。那須さんは3歳の時広島で被爆され、戦争のない、核兵器のない社会をめざして多くの作品を書かれてきました。今回は、最近の危険な状況を念頭に、「ズッコケ三人組」などの代表的作品を通して、平和への思いを話していただきます。どうか若若男女多くの方々に参加していただき、那須さんとともに平和について考えたいと思います。

2019 ぎふ平和のつどい

2019年11月3日(祝)

13:30~16:00 受付:12:30

会場:岐阜市民会館大ホール

講演:那須正幹さん(児童文学作家)

「ズッコケ三人組平和を語る」

那須正幹(なすまさもと)さん プロフィール



1942年、広島市生まれ。島根農科大学林学科卒業。

1970年『首なし地ぞうの宝』が第2回学研児童文学賞佳作に入選、1978年『それいけズッコケ三人組』に始まる「ズッコケ三人組」シリーズ全50巻(巖谷小波文芸賞)は、通算2000万部を超える大ベストセラーに。その後、三人の40代を描いた「ズッコケ中年三人組」シリーズに続き、2015年に完結しました。この作品は、テレビドラマや映画にもなり、多くの世代に受け入れられました。

ほかに、『ねんどの神さま』、『さぎ師たちの空』(路傍の石文学賞)、『ヨースケくん』『お江戸の百太郎』シリーズ(日本児童文学者協会賞)、『絵で読む広島原爆』、『ヒロシマ』三部作(日本児童文学者協会賞)、最近の好評作『ばけばけ』など著書多数。

現在は山口県在住。「防府市九条の会」代表を務め、「山口県市民連合」の共同代表として、平和と政治革新のために活動しておられます。

<那須正幹さんからのメッセージ>

「ぎふ平和のつどい」にお招きくださり、ありがとうございました。岐阜市には以前お邪魔した記憶がありますが、その時は児童文学関係の集まりだったと思います。今回は平和について、著作を紹介しながら、その思いを語っていきたくて考えています。

私は1942年広島市の生まれで、3歳のとき、爆心地から3キロの自宅で被爆しました。あの日のことは断片的ながら覚えています。長じて児童文学作家となつてからは、原爆や戦争について何点かの著作を発表していますし、今後も書き続けたいと思っています。

昨今の日本の状況を見ると、まさにそのことを次代に伝えるのが、あの日を生き延びた人間の義務ではないか。痛烈に感じている次第です。

「2019ぎふ平和のつどい」を楽しみにしています。

今年の実行委員長は、平井花画さん(岐阜ユネスコ協会会長)です

今年の<2019ぎふ平和のつどい>実行委員長は、平井花画さんです。平井さんは服飾デザイナーで、岐阜ユネスコ協会会長を長年担われ、岐阜市教育委員会委員長も務められるなど、平和・友好・教育分野で活動されてきました。今回お忙しい中、無理を言って3度目の委員長を引き受けていただきました。

なお、事務局は「岐阜・九条の会」が担当し、副実行委員長は吉田千秋、事務局長は魚次龍雄という体制で運営していきます。ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

「2019 ぎふ平和のつどい」の開催にあたって

実行委員長 平井花画



戦後しばらく、私たちは、どちらかというと、「平和」を「日本の平和」として考える傾向にあったような気がします。しかし、今や、日本国内に多くの外国人が住み、また、身内が海外で暮らしていたりして、特に平和を基に考える際、国単位ではなく世界を意識しなければならなくなりました。

それと同時に、その平和を、国としての平和でなく、人としての平和を願わねばならないと気づき始めています。地球上には、約76億人が生き、その一人が心の中に平和を構築するには、実は、ほんの少しのエネルギーがあればできるのです。そして、その一人ひとりの平和が、76億人分集まってこそ「本当の平和」であると思います。

実行委員長など、私としては、とてもおこがましいのです。しかし、現在、そして、未来の人々のためにも、常に「平和を創っていく」方法を模索し続けたいと考えています。一緒に「2019 平和のつどい」を多くの人たちに呼びかけさせてください。

那須正幹さんの講演を楽しみにしています

「平和のつどい」へは、毎年参加しております。今年の「平和のつどい」で児童文学作家の那須正幹さんが講演されると聞き、今から楽しみにしています。

那須さんは、「ズッコケ三人組」シリーズの作者として有名です。「ズッコケ三人組」シリーズというのは、その名の通り、「三人組」（小学生のハチベエ、ハカセ、モーちゃん）が主人公の作品です。三人組が学校や地域でいろいろと活躍するといったストーリーです。学校の図書室にこのシリーズの単行本が置かれていて、私は小学生の頃、このシリーズを愛読しておりました。

また、那須さんは児童文学作家という顔とは別に、九条の会の活動もされているそうです。かつて愛読した作品の作者であり、九条の会の活動もされている那須さんがどんな話をしてくれるのか、期待しております。

椎名貴彦（九条の会・岐阜大ネット）



九条と「ズッコケ」と那須さんと

那須正幹さんの初期代表作『屋根裏の遠い旅』（一九七五）は憲法九条から始まります。主人公は花山小学校六年生の男の子二人。那須さんは彼らを「アジア・太平洋戦争に勝利し、なおも戦争を継続中の日本」に置き去りにしてこの物語を閉じました。

一方こちらの世界、つまり「戦争に負けた日本」の花山第二小学校では、六年生の男の子三人組の大活躍が始まります（七八）。これが「ズッコケ」シリーズです。落語、映画、漫画などの多彩なコンテンツとホラー、SF、冒険活劇などを自在に掛け合わせ、政治や経済に関する小難しいテーマも巧みに練り込んで仕上げたこのシリーズ、当初はあまりに斬新過ぎて大人には理解されませんでした。

機知と軽妙さと、時に毒を潜ませて光る那須ワールドに、ようこそ。

岐阜での講演会が本当に楽しみです！

相川美恵子（児童文学研究者・岐阜県出身）